



上 / 真剣な表情でサッカーボールを蹴って、観自在王院跡を駆け巡る子どもたち
右 / お世話になったコーチたちと記念撮影



わたしたちの音楽 やり切った

11月8日、4年生が関地方児童音楽発表会に参加しました。その時の様子について、学年通信「かがやき」や講師による講評から抜粋してお知らせします。

【かがやきの記述より】子どもたちは、これまで練習した成果を発揮しようという気十分で学校を出発しました。本番前のリハーサルや舞台裏では、緊張している子どもたちがほとんどでした。それでも自分の顔をきゅっと押し上げ、隣同士で笑顔を見せ合い、少しでも緊張を和らげようとしていました。本番では、緊張しながら



ホールに響く歌声

らも精一杯練習の成果を出し切り、たくさんの人の心に残るすてきな演奏をすることができました。【柳原和歌子先生による講評より(合奏について)】各パート、一生懸命練習してきたことが伝わる合奏でした。音楽の縦の重なりがしっかりとできていたので、次は旋律のフレーズに気を付けると、音が流れてメロディーがスムーズと伝わってきます。一人一人、しっかりと指揮を見て演奏していたところが素晴らしいです。

【横山泉先生による講評より(合唱について)】先生と子どもたちの絆が感じられる合唱でした。子どもたちは、この曲の内容を声だけでなく、表情や目の輝きなど、体全部で表現していました。一人一人のやり切った満足感をみんなが共有できた音楽発表会でした。

平泉小学校

☎46-22002

長島小学校

☎46-22003

平泉中学校

☎46-22005

ふれあいコンサート10周年を記念して

「小さな学校のHAPPYコンサート」と称して始まった親子ふれあいコンサートも今年で10周年を迎えました。節目となるこの年に、約40年前に閉校した長部・小島の両小学校の校歌演奏することが決定。

バンドマスターを務めている石川幸輝さんが当時の楽譜を基に伴奏の編曲をし、今回のコンサートで演奏する運びとなりました。校歌ですから、もちろん歌が主役。児童だけでなく、祖父母世代の皆さんにも出演してほしいと思い、広くメンバーを募集しました。うれしいことに、町内でコーラス活動をしている人たちや保護者が出演希望をしてくれました。

校歌の歌詞を読んでも、風景、小島は正しい人として優れた人を育てていこうとする信念が感じられるものでした。難解な語句もありましたが、長島小

の校歌にも通ずるところもたくさんあり、児童は短い練習期間でもしっかりと意味を理解して覚えることができました。



総勢126人による校歌斉唱

コンサート当日、2つの校歌は、時を超えてよみがえり、全校児童・保護者教職員・地域住民総勢126人によって歌われました。来場者の中には、当時を懐かしみ、口ずさむ人も数多くいました。また、演奏後の反響もありました。新聞記事を見て、校歌が40年ぶりによみがえったことを知り、楽譜を求めるために来校された人もいます。

校歌の歌詞と楽譜は増刷しましたので、いつでもお問い合わせください。

能舞台への道案内

11月11日、能楽師の佐々木多門先生をお迎えし、3年生と保護者を対象とした家庭教育学級を開催しました。「能舞台への道案内」と題し、能楽の歴史や平泉と能の関わり、能の所作や謡を体験しました。目の前で舞う多門先生からは本物の迫力を感じ、能の世界に引き込まれる時間を過ごしました。

「初めて『能』を見せていただき、一つ一つの動作に思いが込められており、静かなながらも迫力のあるもので、すごく感激しました(鈴木美結さん)」「多門先生が演じているときの声や表情が話しているときと全然違ってプロはすごいと感じました。私は神楽をしていて舞台上立つのでとても勉強になりました(千葉優愛さん)」「初めて『能』というものに触れ、昔の人々の風



能を披露する多門先生

元気いっぱい運動！「キッズサッカー」教室

二葉きらり園では、町教育委員会が主催する「出前スポーツ教室」のプログラムを活用して「キッズサッカー」を行っています。毎回、スポーツ推進委員らをコーチに迎えて、観自在王院跡や園庭で教室が開催されます。初めはサッカーボールを蹴るのをためらう園児もいましたが、コーチの指導の下、今ではボールに慣れ、一生懸命ボール

を追いかけて、ゴール目掛けて力いっぱいシュートしています。園児たちは体を動かすことが大好きなようで「もっとボールを蹴りたい」などと毎回帰り際に話してくれました。

11月7日には、参観日と併せて同教室が開催され、保護者の皆さんも普段とは違う真剣な表情の子どもたちの姿を温かく見つめていました。

平泉中の佐々木・東郷ペア 2部リーグで準優勝！

第23回岩手カップ中学生学年別ソフトテニス大会(岩手県ソフトテニス連盟主催)が、11月3日と4日の2日間、北上市の和賀川グリーンパークで開催され、平泉中学校1年生の佐々木裕恩さんと東郷友希さんペアが出場し、2部リーグで準優勝しました。

県内各地の予選を通過した中学校と、東北各県から集まった実力者ひしめく中、予選リーグを2位で通過した同ペア。2位トーナメントに進み、1回戦では種市中、2回戦で西根中、3回戦で一戸中、準決勝では千厩中を破り決勝へと進出。決勝戦では軽米中と戦いましたが、惜しくも敗れ準優勝となりました。



準優勝した佐々木(写真左)・東郷(写真右)ペア

Amore平泉 県インディアカ大会で優勝

令和元年度スポーツ・レクリエーション祭「インディアカ」兼第16回岩手県インディアカ大会が10月27日に、盛岡市勤労身体障がい者体育館で開催され、参加していた平泉町インディアカ協会会員で構成されるAmore平泉が見事優勝しました。

県インディアカ大会へは第1回から参加しており、過去にも好成績を収めた経緯があります。キャプテンの山平さん(7区)は「去年は決勝リーグ1回戦で敗れたのが悔しくて、今回優勝できてすごくうれしい。毎週土曜日午後7時に長島体育館で練習しているので、インディアカに興味がある人はぜひ一度参加してみてください」と話していました。



優勝した Amore 平泉

ニユースポーツ講習会を開催 今年の種目は「ポッチャ」

11月15日に、長島体育館でニユースポーツ講習会を開催。講習会にはスポーツ推進委員、地区コーディネーター、PTA役員のほか、希望した町民小学2年生から70歳まで合わせて21人が参加しました。

障がい者スポーツ協会の会員を講師に迎え、コートの作成方法、協議のルール、審判の仕方などニユースポーツ「ポッチャ」について理解を深めました。

ポッチャは子どもから高齢者まで楽しめるレクリエーションスポーツであり、パラリンピックの正式種目でもあります。年齢性別を問わずにプレーできる競技のため、年齢差60歳以上の白熱したプレーを見ることができました。



白熱した試合が展開された